

ワーカーズ・コレクティブ —その理論と実践—

メアリー・メロー／ジャネット・ハナ／ジョン・スターリング著、佐藤紘毅、白井和宏訳

本書は、イギリスの放送大学出版会、1988年刊行の *Worker Cooperatives in Theory and Practice* の翻訳である。労働者協同組合の実践の歴史、思想史、研究史の整理を試みる内容となっているが、労働者協同組合をめぐる論点が簡潔に整理されている点で、入門書として最適である。

イギリスは、協同組合の祖国らしく労働者協同組合にかんするかなりの研究蓄積がある。しかし、ジュニー・ソーンリーの『職そして夢』(石見尚訳、批評社刊)を除けば、ほとんど日本では翻訳されておらず、その貴重な実践の経験、研究の成果が十分に提供されていない。その点で、この本が日本で翻訳される実践的意義は大きいといえる。

本書は、イギリスの研究者らしくできるだけ主観を抑制し、冷静に労働者協同組合の抱える諸矛盾を分析する手法がとられており、必ずしも「楽観的」に解決策を提起するタイプのものではない。したがって、この本を読むことによって何らかの「処方箋」を期待する読者は失望するかもしれない。しかし、誠実に、「問題」を発見し、直視しながら自分の頭でその問題を解決していくタイプの実践家にとっては読みごたえのあるものである。以下、本書の内容を簡単に紹介したい。

序章では、本書の目的が明らかにされる。まず、労働者協同組合には、一つの共通のテーマとして「労働を統制するという欲求」があることが指摘されている。労働者みずからによる労働過程の統制・管理こそ、労働者協同組合運動を基底において支える欲求・思想なのである。このような認識を基礎に、著者たちは本書の目的を「協同組合人たちのさまざまな考え方を彼らの実践に照らして整理すること」としている。

この目的に沿って第一章では、初期の多様な潮流の協同組合人たち—オーエンやフーリエ、キリスト教社会主義者等—の考え方と批判者の見解が

紹介され、第二章では、主に第二次世界大戦後の協同主義の再興が検討されている。

そして、第三章と第四章では、資本主義社会において労働者協同組合が直面している諸問題—矛盾と制約—が検討され、協同組合としての地位を保持し、かつ資金と市場を確保することの困難さが紹介されている。

第五章では、労働者協同組合における働き方がとりあげられ、組合員間の抗争が協同組合内部でどのように処理されているかを検討することによって、組合員個人の変わり方の問題が検討される。

第六章では、ポスト商業社会の理論家たちの議論とその問題点が検討される。そして、第七章の結論においては、協同主義というテーマが、現代資本主義の競争的个人主義にたいする「不可避のアンチテーゼ」であることが提唱されている。

この本で特に興味深かったのは、第五章の労働者協同組合の内部組織、その民主的運営の、実証的研究にもとづく検討である。著者たちは、労働者協同組合の成功の基準として、経営の成功のみならず、市場の圧力のもとで内部組織の民主主義がどの程度、意味のあるものとして実施されているかを重視している。これは、やはり労働過程の「統制」という労働者協同組合の本質と関連する問題であり、その検討は極めて重要である。

本書は、労働者協同組合の理念を擁護しつつ、そこで働くことが個人にとってよいことだという「無批判的な想定」にたいする批判も行っている。労働者が労働過程にたいする統制力を維持していく展望を模索するうえでも、失敗の経験から冷静に学ぶ姿勢が必要なことを本書は提起しているように思われる。

(評者・塚本一郎)

(緑風出版、384頁、定価3200円、92年4月刊)

(12ページより)
ないでしょうか。このような問題意識から、現代
の労働のあり方を理論的に問う視点で協同組合を
考えていきたいと思っています。

受贈図書文献 1992年5月

単行本

○J・アール著、川口清史・佐藤誠監訳『イタリア協同組合物語』(リベルタ出版、92年5月)

定期刊行物

○『障害者のゆたかな未来をめざして』(月刊)第119号(愛知県・ゆたか福祉会、92年4月)○『明日を拓く』(季刊)第9号(同編集委員会、92年3月)

文献・資料

○中高年事業団センター事業団「ほっとらいん(縮

刷版)』(92年5月)

○埼玉県生活協同組合連合会「埼玉県生協連20周年・運動資料集」(92年5月)

○中小企業家同友会全国協議会「同友会景況調査報告」No.10(92年4月)

○労働運動研究会「労研ニュース」No.41(92年4月)

○東京設計ユニオン自営者分会「東京設計ユニオン自営者分会月刊情報」No.17(91年4月)○全京都企業組合連合会「スライド&トーク全企連の四十年」(91年2月)

○京都地区私立大学教職員組合連合他「私大政策研究」第8号(92年4月)

活動ファイル 1992年5月

- 6日 事業団主催「ワーカーズコープ・セミナー(東京地区)」開催(池袋)。
「いま『協同』を問う'92全国集会」(以下、協同集会と略記)、全体会パネラー寺西俊一氏(一橋大学)と懇談(国立市)。
- 7日 事業団主催「労働者協同組合国際シンポジウム」準備検討会議(東京・事業団本部)。
- 8日 プランド研究所と事業開発計画に関して検討会議(東京・プラント研究所)。
- 9日 第2回協同集会実行委員会開催(東京・国労会館、13時半)。
- 12日 第4回定款検討委員会(協同総研、14時)。
- 14日 協同集会、第1分科会「環境・まちづくり」準備打ち合せ会(協同総研、16時)。
- 15日 第9回「福祉・医療と協同」研究会、報告依田発夫(池袋・東京芸術劇場、18時半)。「協同の発見」第7号、発行、発送。
- 16日 第4回理事会(東京・明治大学、11時)。
- 18日 協同集会、立命館大学下見(京都市)。協同集会、関西実行委員会開催(京都市・京都生協会館、18時)。
- 19日 協同集会、第5分科会「協同組合と事業経営」準備打ち合せ会(事業団本部、16時)。
- 20日 東都生活協同組合、福祉事業開発本部・遠藤、船橋氏来所、懇談(協同総研、15時)。
- 22日 広島共同作業所、久保氏来所。都筑建(タウ技研)、外谷富二男(城北地域労組)を交え福祉器具の開発と雇用に関して懇談(協同総研、17時)。
- 23日 第11回「廃棄物問題」研究会(畔上塾)〈プラント研究所、10時〉。
- 24日 中高年雇用・福祉事業団全国連合会、第13回定期全国総会(三重県・鳥羽市、~25日)。
- 25日 同センター事業団、第7回総代会開催(同上、~26日)。
- 28日 協同集会のチラシ、ポスターを全国へ発送。第9回「労働組合運動と協同」研究会、報告：村上剛志氏(明治大学、18時半)。
- 31日 愛知「つげのフェスティバル」へ黒川俊雄、中西五洲参加(愛知・豊川市)。